

新潟焼山の火山活動解説資料（令和2年5月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

噴煙活動及び地震活動は低下した状態が続いています。
しかしながら、新潟焼山はこれまでも噴煙活動の活発化を繰り返しているため、今後の活動の推移に注意してください。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・表面現象の状況（図2、図3 - 、図4～5）
噴煙活動は低下した状態で経過しています。今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上100m以下で経過しました。

- ・地震や微動の発生状況（図3 - 、図6～8）
火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動は観測されていません。

- ・地殻変動の状況（図1、図3 - ）
GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

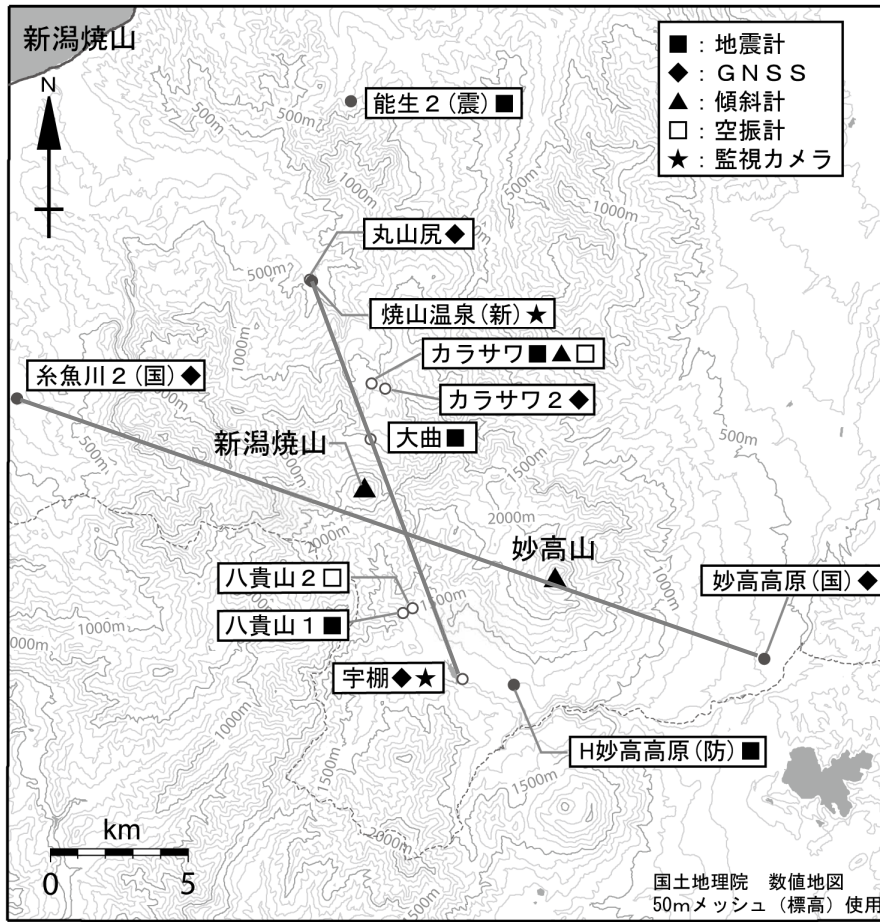
この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和2年6月分）は令和2年7月8日に発表する予定です。
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、新潟県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所、(新) : 新潟県

図1 新潟焼山 観測点配置図
 (GNSS 基線 は図3の に対応しています)



図2 新潟焼山 山頂部の噴煙の状況
 (左: 焼山温泉監視カメラ (5月8日) 右: 宇棚監視カメラ (5月14日) による)

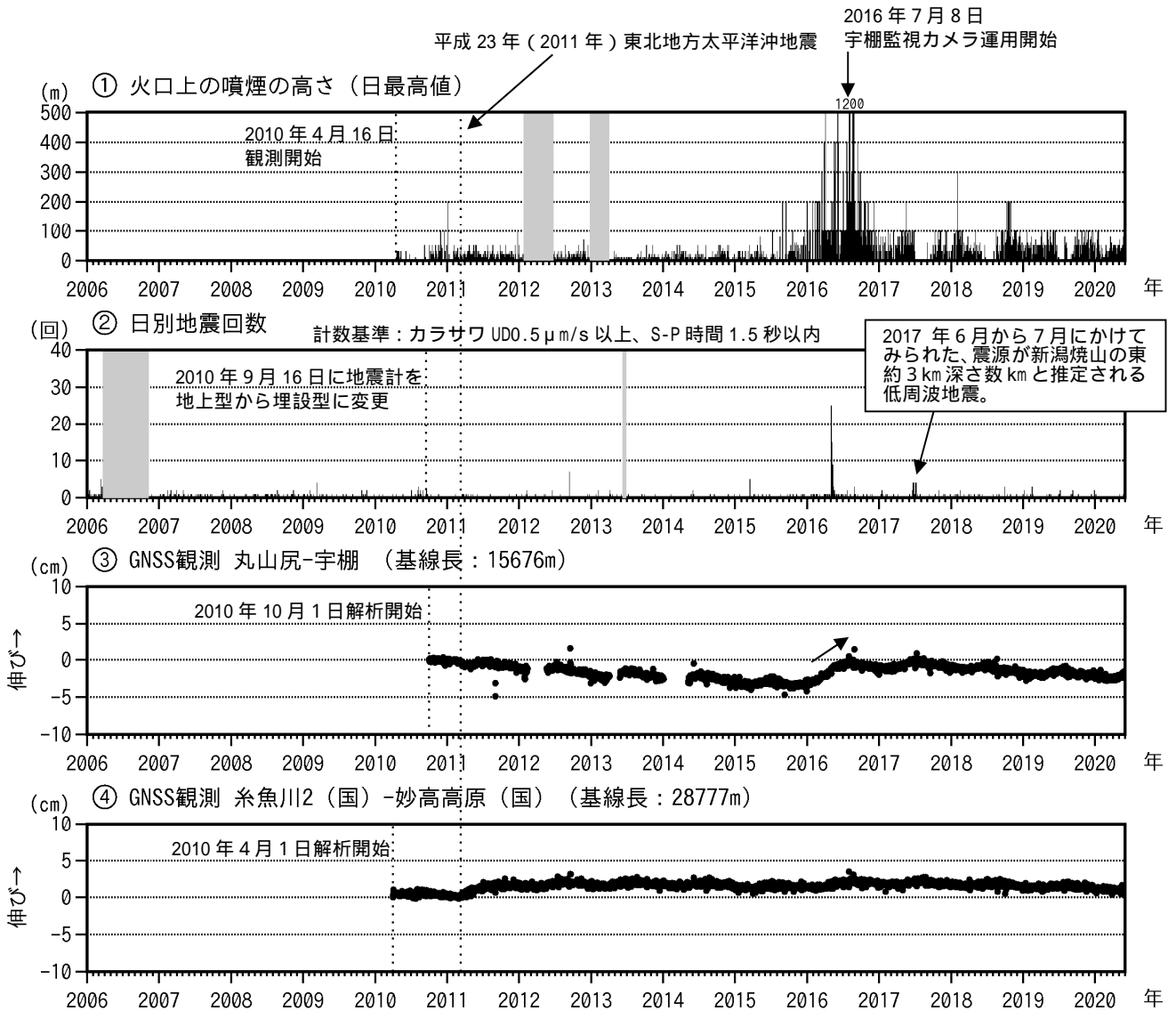


図3 新潟焼山 火山活動経過図（2006年1月1日～2020年5月31日）

（国）：国土地理院

灰色部分は機器障害による欠測を示します。

図1の に対応しています。空白部分は欠測を示します。

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震によるステップを補正しています。

- ・今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上100m以下で経過しました。
夏場には、視界不良のため山頂部が見えないことが多くなります。
- ・の基線で2016年1月頃から2016年夏頃にかけて伸び（矢印）の変化がみられました。
- ・今期間、火山活動によるとみられる変動は認められません。

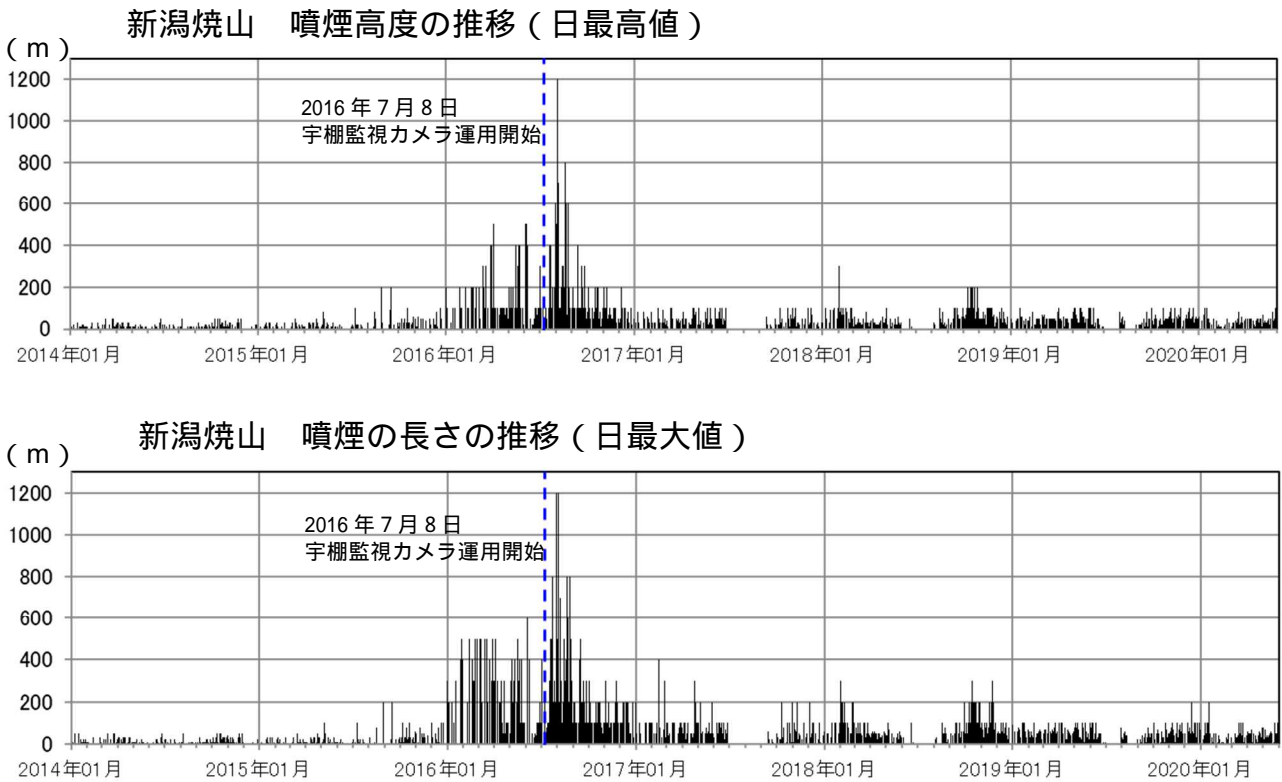


図4 新潟焼山 噴煙高度と噴煙の長さの推移

（それぞれ日最高値及び日最大値、2014年1月1日～2020年5月31日）

噴煙高度は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（図5参照）のグラフも示しています。

2016年7月8日に宇棚監視カメラの運用を開始しました（宇棚監視カメラの位置は図1を参照）。それ以前は、最高値が確認できていないことがあります。

- ・2017年7月から8月にかけては、期間を通して視界不良のため山頂が見えないことが多く、また観測できた時間帯も、山頂東側斜面からの噴気は観測されませんでした。
- ・2015年夏頃から噴煙はやや高く上がる傾向が認められ、2015年12月下旬からは噴煙量も多くなりましたが、気象条件により噴煙が高く上がる日はあるものの、2016年秋から噴煙高度は低下した状態で経過しています。

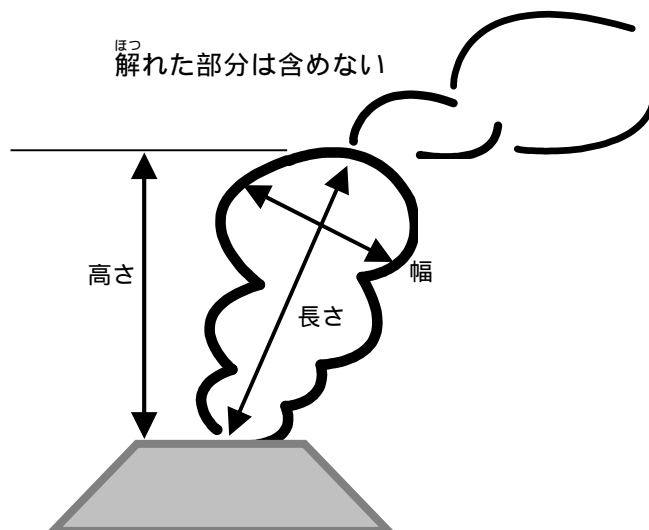


図5 噴煙の長さ、幅、高さの概念図

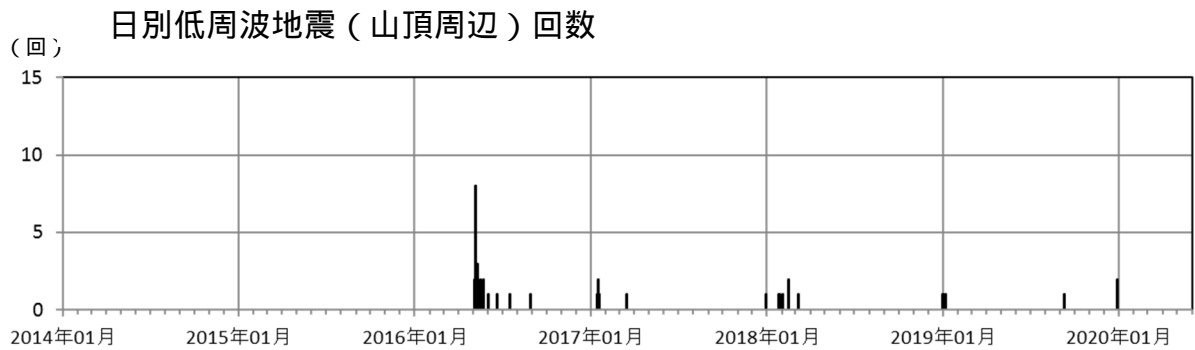
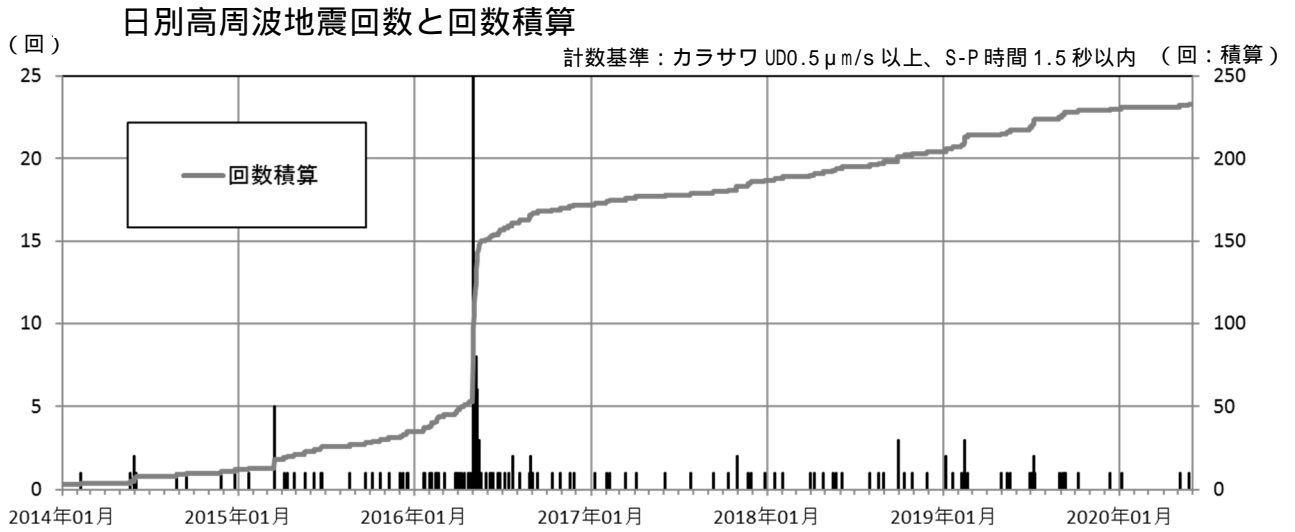


図6 新潟焼山 日別地震回数（2014年1月1日～2020年5月31日）

地震の主な種類（図7参照）ごとの回数を掲載しています。

- ・2016年5月頃に火山性地震回数が増加し、低周波地震も発生しましたが、2016年6月に減少し、それ以降火山性地震は少ない状態で経過しています。

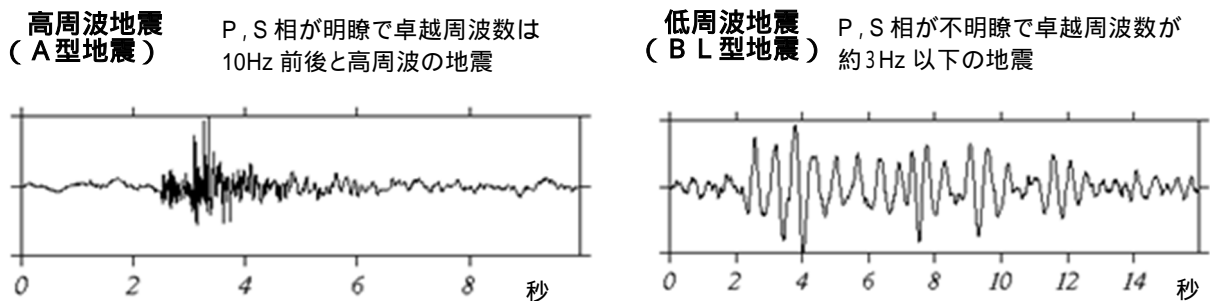


図7 新潟焼山 火山性地震の特徴と波形例

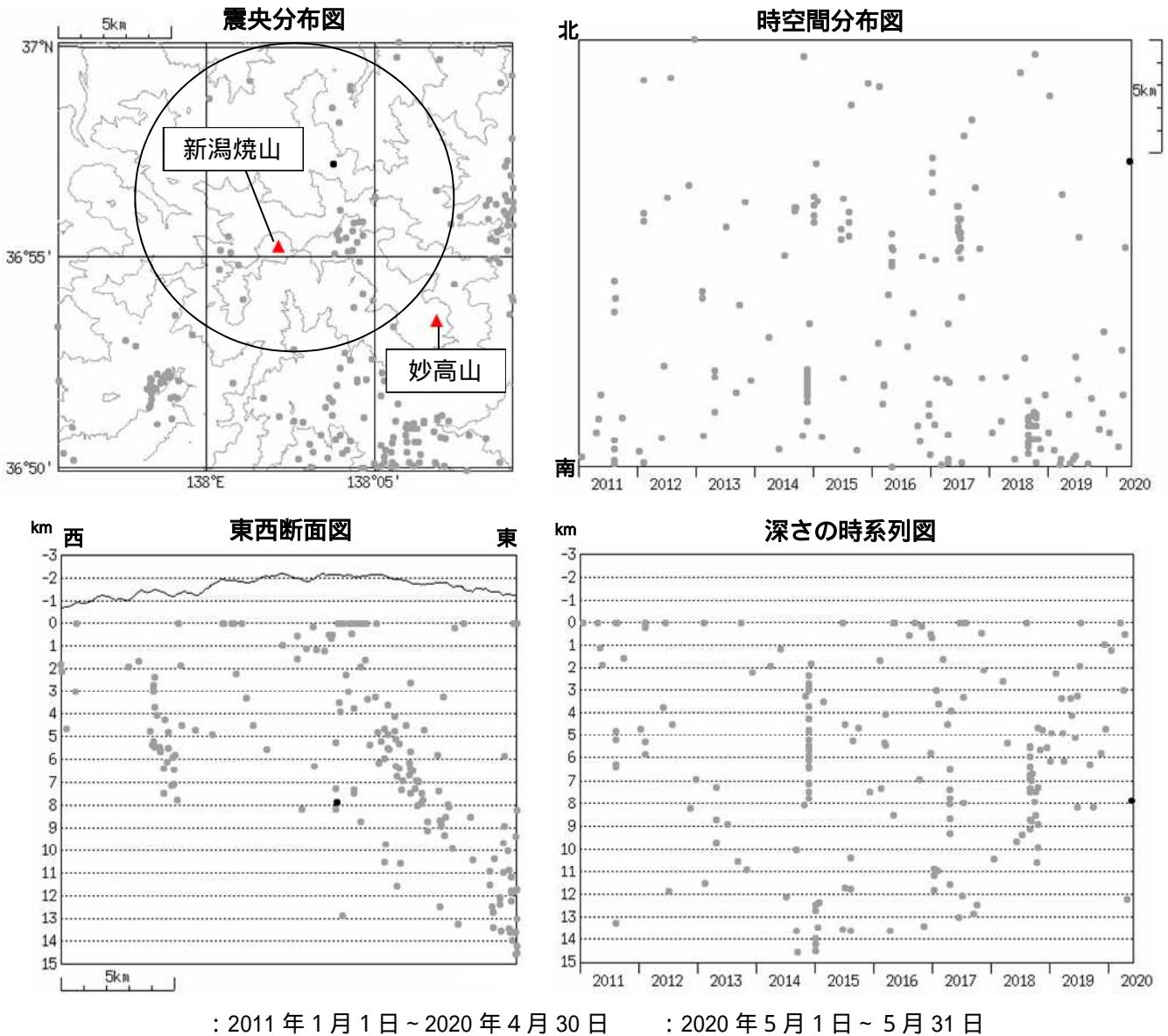


図8 新潟焼山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011年1月1日～2020年5月31日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

2020年4月18日以降の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。

震源分布図中の円は新潟焼山の計数対象地震（カラサワでS-P時間1.5秒以内）のおよその範囲を示しています。

- ・今期間、新潟焼山周辺の地震は少ない状態で経過しています。